

第8回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会議事録概要

会議の名称：第8回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会

開催の日時：平成20年11月20日（木） 午後1時30分～午後3時30分

開催の場所：鳥取県庁 第21会議室

出席者氏名：別紙出席者名簿のとおり

会議の概要：以下のとおり

◆審議事項

- ・平成20年度地方独立行政法人鳥取県産業技術センター業務実績報告書の作成に係る委員会からセンターへの要望事項等について

1 業務実績評価書での意見

○数値目標の達成だけでなく、実効性・効果等の検証（技術相談、講習会）

委員	主な意見	意見に対する回答、対応
千葉委員長	<p>○今回の評価に関して、数値目標だけは見たが内容が希薄化していないか、時間あたりに業務量が縮小していないかなどの質的な面について、議論できなかった。</p> <p>○企業から見たときに、具体的にどういふ業務にどの程度効果があったか、質的向上を伴って実施されたかどうかについて、客観的に把握できるようにしたらどうか。</p> <p>○具体的な方策として、アンケート調査等を産業技術センターが行わず、客観的な立場の機関が回収、集計してみてはどうか。</p>	<p>○センターとして、企業への調査アンケートを2年に1回行う予定。19、20年度の実績をベースにして、21年度当初にアンケートを回収し、その結果を20年度の実績報告書の中で言及する予定。（産技センター）</p>
中村委員	<p>○数値は大事だが100%とらわれてはいけないという意味で賛成。</p>	
副井委員	<p>○客観性を保つ意味からも第三者によるアンケートは必要だと思う。</p>	
千葉委員長	<p>○企業等がセンターに行ったとき、あるいは来た時に、そのサービス毎に、評価アンケートを渡し、常にそれが戻ってくるスタイルで、できれば年間で自動集計できるような形にしておいたらと思う。</p>	<p>○講習会に関しては、その都度毎のアンケートを昨年度から行っており、さらに、今年の10月から、センター利用者にもその都度毎の窓口アンケートもしている。（産技センター）</p>

千葉委員長	○客観性なり、いつでも集計できる形でやっていただくということでもよろしいか。	○その都度のアンケートはその都度集計している。（産技センター）
辻委員	○現在やっておられるというのは、中立的な機関ではなく、手前味噌でやっているということで、委員長がおっしゃっているのはもっと違うのではないかと思った。	○その都度の利用者アンケートは回収ボックスに入れていただく、2年に1回の全体評価。アンケートについては、一斉に郵送して、研究所ではなく、企画室に集まるような形で回収する。（産技センター）
副井委員	○その都度のものではなくて、年度のたとえばサービスがどうだったかという全体のものではなかったか。	
千葉委員長	○たとえば年間1回ではなくて、常にそのサービス1件毎に出てくる効果を質的に見なくてはいけないだろうということはある。それをたとえば2年に1回まとめてやるというのは、それはそれで参考になると思う。	
辻委員	○中立的な立場を考慮するとしたら、アンケートを作るのはセンターで作っても良いが、回収をするのは別の組織、中立的な組織がやるようにした方がいかと思う。	
中村委員	○インターネットの活用はできないか。年間通して受け付ける一種の苦情相談なら、あまり労力もいらぬ。	
中村委員	○委員長の要望は、2年に1回で足りるのか足りないのかということと、第三者機関による中立が保たれているかということ。	
千葉委員長	○次の委員会で事務局から提案してもらって、議論していただくということをお願いする。	

○数値目標の達成だけでなく、実効性・効果等の検証（体制整備）

委員	主な意見	対応
谷口委員	○公のために、地域に貢献するために、	○来年度以降入れる機械について、機器の導

	<p>然るべき機械を買っていただきたいとすでにお願ひしている。一見過大な装置も持っていないと、いつまでも鳥取県の技術水準は2の次、3の次で存在価値がほとんど認められない状態になってしまう。だから、本当に必要な機械をそろえていただきたいと思う。</p>	<p>入アンケートをやり始めたところ。それから今まで入れた機械について当初見込んでいた効果との対比を見ていかないといけないと思っている。また、鳥取大学や他の公設試の利用の是非の判断をしていかないといけないと思っている。(産技センター)</p> <p>○企業立地促進法で県が計画を作ったので、人材育成のための機械について、来年度までだが国10/10の予算が付く。県に話をあげてもらえば、我々は対応するようにしている。(事務局)</p>
谷口委員	<p>○センターの機器利用に当たって、オペレーターとしての使い方はわかるが、機械の周辺でのマナー、ルールを周知徹底していただきたい。</p>	<p>○基本的なところから、表示等対応するようにする。(産技センター)</p>
千葉委員長	<p>○センターの方で、どこまでできるか考えていただくということをお願いする。</p>	<p>○迅速な意志決定であるとか、そういったことに結びついてくるのだろうと思うが、それ自体を証明するのはなかなか難しいかと思う。例えば、19年度だと、企業での実務経験を有する人を入れたとか、企業の要望に応じて入居料の低減を実施した等、そういう事例を記載させていただくかとは思っている。(産技センター)</p>

○数値目標の達成だけでなく、実効性・効果等の検証（業務運営及び財務状況）

委員	主な意見	対応
辻委員	<p>○センターとして、お客様であるサービスの相手からの評価を一生懸命議論しているが、センターで働いている人のモチベーションなど、働いている人たちの意識がどのように変わってきているか、評価の項目を入れるといいと思った。組織運営の中で、この組織がうまく回っているか、活性化しているかどうかを、自分で点検することは</p>	<p>○理事長評価に当たって、各委員にやっていただいた業績評価と残りの2割が知事による評価、まさにモチベーションを高めたか、組織の活性化をやったかという項目がある。(事務局)</p> <p>○最後はアウトプットだと思う。うちの理事長がどうだという話ではないが、トップから、必ずこうしなさいといった命令もせねばならないだろうから、それによって、自</p>

	組織としてやるべきことだと思う。	分の意に反してと言うこと自体が変な場面もあるわけだから、よく考えないとならないと思う。（産技センター）
中村委員	○組織の活性化とかという意味では評価項目にあるが、センターにさせても手前味噌の結果しか出てこない。だから、私は個別に研究員に接触して意見を聞いている。それは、委員の方からがんばらないといけない。	
千葉委員長	○辻委員の提案があったことは少し難しいので、これをこの場で結論を即ということでもないので、これは継続で議論していただきたいと思う。これからどう対応するかセンターで考えていただきたい。	
谷口委員	○自己評価はやらせるべきだと思う。第3者が評価したのだったら、ひいきだとかあるが、自分はこれだけの成果を出したといったら、なにがしかのパーセンテージをかけたものを彼らに還元してやるように私はしている。それが一番楽だし、本人も納得する。	○研究所長と研究員が話して目標を定め、半年、年度末というところで自己評価、件数がどれだけ上がったかというのも当然であるし、特に濃い指導内容、成果も期間毎に出すのが一番重要だと思っている。それをベースにして、業務運営の実績、個人評価というものを行って、それらが寄せ集まって、理事長の評価、モチベーションが出てくるものと思っている。（産技センター）
中村委員	○今年の計画が外部資金の獲得1件とあるだけで、金額が書いてない。だから、次年度に、1件なのか2件なのか別にして、件数の数値目標だけでなく金額を数字で表すのは多分しんどいだろうけれども、獲得資金の増額を目指すとかいう目標の設定、計画にすればいいと思う。	○中期計画で4年間の総体の件数がセットされているので、それを着実に、年度割りで届け出するという事なので、次の中期計画という形になるかと思う。あとは、金額をいかようにというところは、また別途検討せねばならないと思う。同じ課題においても、年度ごとに変動があり、どのメニューでとるかということもあるから、金額としてはシビアな気がする。
千葉委員長	○次回の業績の時にそういった表現を盛り込んでいただくということで対応していくと。	○ここは、件数以外のところの評価項目、視点で、成果がいかようにあったかとか、そういうところで私どもも成果を記載して評価していただくのがよろしいのではないかと現時点では思う。（産技センター）

中村委員	○企業ニーズの取り込みについて、もっともだという意味で特に反論はない。中期目標自体が企業ニーズの高い技術支援と書いてあり、それをやっていないなら、計画未達成となるが、期待すると書いてあるから期待しよう。評価の視点からいえば、そういう点にも配慮するという意味。	○アンケートの話はしたが、これ以外にも企業訪問であるとかそういった場を活用して、説明責任は果たしていきたいと思っている。（産技センター）
千葉委員長	○どうやってニーズを把握するかというところで、把握の方法とそれに対してどう応えたかという両方を、ニーズとその対応が見えるような形で反映することをお願いします。	
千葉委員長	○目標件数の設定については、そもそもどうだったのか。 ○10人位の組織でも何十件も特許を持っているのが普通のようなので、50人いればもっとあっても良いのかなという気がする。	○独立行政法人になる前に、決して怠けていたわけではないが、過去3カ年平均をベースに設定し、異常に低いものではなかったと思っている。（産技センター）
辻委員	○サービスに時間をとられて、実際の開発、研究にどのくらいの時間がさけるのかによって、出願できる件数も変わるだろうし、もちろん分野によると思うが、1, 2件と聞いたときに、ほとんどの労力が県民サービスの充てられているのかなと想像せざるおえなかったが、実態はどうか。	○人によって、80%位研究に割いている人もいるが、全体の1/4ぐらいが研究開発である。（産技センター）
辻委員	○研究テーマを設定するときに特許が出せるテーマなのかどうか大きな結果を左右するものになっていくと思う。	○特許が出せる研究テーマの設定の仕方ではない。企業に落とし込めるかどうか。（産技センター）
辻委員	○何かの目的で研究をして、こうするとうまくいくだとか、今までできなかったことができるようになるのかということであれば、特許になるはずだと思う。	○今まで何件か出しているわけだから、そういう目で見えていないわけではないが、確かに、企業のためにしたいということが大きすぎて、特許まではという意識は無かった

	う。やったことのどこが特許になるのかを見極めて、サジェストできる人がいないから、特許の件数が少ないのかなと思える。	のは多分事実。（産技センター） ○これから、それも頭に入れてテーマを決めたりしないといけないというのは、理事長も言っている。ただ、それだけで、企業支援ができるかというところではないので、研究についても企業支援というのが非常に関わってくる。単独の基礎的な研究よりも製品化研究みたいなことに入るので、そこで、すぐに新しい特許が出るかというところとわからないでそのまま行ってしまっているのも多々あるかと思う。（産技センター）
谷口委員	○発明協会の講習会で、ベーシックなこととはご存じのはず。	
辻委員	○企業を助けるために、ようやく世間並みの技術レベルにきたという段階では特許はなかなかでないだろうという気がする。	○今、県内企業も違うことを望んでいて、少し光るものがないとなかなか我々と一緒にやろうかという意志はないので、我々も意識していかないといけないのかなと思う。（産技センター）
中村委員	○年間6, 7件出てくるのが最終的なゴールとすれば、この4年間で、9件出しますというのは、非常に少ない。しかし、過去6年間で数件しか出してないわけで、この数値を上げなさいとして、やっと9件出てきた。この4年間で9件出すのは相当な飛躍である。 ○これから増えていき、中期目標の9件がイージーに達成される時代が4年目には来るのではないか。これだけ委員からも要望が大きければ、センターとしても意に介してくれるのではないか。	○県の施策として、知的財産の条例を策定して、今まで3年間は普及啓発、底上げを中心にやってきたが、来年から2年間は逆に企業の特許申請をサポートしていこうという補助制度も検討している。そうして共同研究の数が増えれば、特許も自動的に増えるようになると思う。 ○知的財産のマネジメント委員会に県も入ってやっていて、結構専門の方からいいアドバイスをいただいている。過去やってきたものがいくつも特許を失っているという指摘がある。研究テーマの設定の時点でおかしいという指摘があった。まさに、勉強しているところ。ただ、それだけをもって、目標設定を変えることまではしなくてもいいかなと思う。（事務局）
辻委員	○重要なことは、出願件数ではなく、権利化される特許がどれくらいなのかということである。ただ、初心者の方は、とりあえず出してみるというス	

	テップがあって、その後に確率を上げる段階に進むのだと思う。	
谷口委員	○特許出願を客観的な一つのカウンティングのアイテムに考えてはいかかかと思う。技術系の方がそういう仕事に専ら従事しているながらパテントが一つも出ないというのは、自分の日頃やっていることが何かおかしい。	
千葉委員長	谷口委員のご見解もあり、一方で目標の底上げというところもあるので、質的なところを踏まえてどこまで底上げができるのかを考えていただくということをお願いする。	

2 その他評価委員から出された意見

委員	主な意見	対応
中村委員	<p>○全体評価では総評で項目1～6まであり、項目1～3について、項目別評価の37項目を緻密に3桁の数値を使って評価した数値と、項目4, 5の中期計画の進捗に係る評価を新たに5段階で評価した数値を合わせて、総合評価の参考数値を計算している。</p> <p>○項目別評価で、3桁の数字を一生懸命積み上げたのに、最後になって中期計画の進捗を1～5のどれかを思い切って入れてくれという足し算で、非常に苦悶した。1桁のものと3桁のものを足すのは全く次元の違う話である。</p> <p>○結論からいくと、私の提案は、毎年の年度計画に対する年度評価のみに点数をつけ、中期計画に対して進捗がいか悪いかは、点数ではなく、言葉で書けばいいのではないか。</p>	<p>○今回のようなやり方でやったのは、3月の評価委員会の際に、資料4（業務実績評価方針及び方法）で抜粋したのが資料5（全体評価方法（案））の左側の部分で、「項目別評価を踏まえつつ、かつ、利用者の意見を踏まえつつ、法人の中期計画の進行状況全体について、次の5段階で評価する」というのがあり、項目別評価の部分と中期計画の進行状況全体を併せて評価した。（事務局）</p> <p>○法人の中期計画の進行状況全体について、次の5段階で評価すると書いてあるので、素直に読むと、5段階で評価しましょうという具合に読んだ。（産技センター）</p>
千葉委員長	○今のお話の中ですごく重要なポイントは、本来全体評価の結果を出すに当	

	<p>たつて、評価委員としての問題なのか 原案作成での問題なのかというのも あると思う。</p> <p>○とりあえず、まず委員の見解を確認し て、それに関連して、事務局、センタ ー側の意見を聞いた上で、次年度以降 どう対処すべきかを評価委員として 結論を出すべきことだと思う。</p>	
中村委員	<p>○我々評価委員会は、全体を見ている。 その中に、サブで、実用化研究評価委 員会があり、研究テーマだけを見てい る。その報告書の最初に3つの分科会 の総括が書いてあるが、いくら読んで も総括になっていない。</p> <p>○私の提案は、実用上我々も評価するから、サブの分科会のそれは緻密な評価 をしている。その評価をいただければ 実用化研究全体の評価はいらないと いうのが私の提案。</p>	<p>具体的に出していただいたので、対応策を次 の委員会で諮りたい。（事務局）</p>
千葉委員長	<p>○センターと事務局でどういう風に対 応していくか練っていただいて、新メ ンバーの中で、評価委員会として、明 快に承認していただいて合意案を作 るという形にしたい。</p>	

3 評価作業等について

委員	主な意見	対応
中村委員	<p>○動かせないところで、6月末に自己評 価が出てくる。8/26に委員会をや って、9月に議会ありき。だから、現 状でやっていくしかしょうがないと。</p>	<p>○今回のように1回で、8月終わり頃に開催 し、そこで最終結論をまとめるのがよいの ではないか。（産技センター）</p>
辻委員	<p>○評価に当たり、現場の生の声を聞いて みたい。書類だけ来て、自己申告の文 書を読んで、これで評価していいのか なという感じでいた。</p>	<p>○皆さんの都合がつけば、1泊2日くらいで 県内企業を集中的に回って、ミーティ ングして情報共有するとか、そういうこと ができるのであれば、調整はやってみたい と思う。我々も産技が選んだ企業ではなく、</p>

		<p>我々が中期目標を設定しているので、我々がある程度政策的に選んだ企業には是非行っていただいて。</p> <p>○逆に、皆さんご一緒でなくても、各委員のリクエストに応じて業種事にやってみる、たとえば辻委員は食品関係で米子、境港でということ是可以する。そういうことは我々から提案する。（事務局）</p> <p>○そのときには、食品開発研究所にも行っていただいて。（産技センター）</p>
<p>辻委員</p>	<p>○機械を買うのに予算が足りないとか、ブレイクスルーが必要だが、自分たちの智恵ではアイデアが浮かばないみたいなきに、たとえば違う県の産業技術センターや国の機関や企業とか、そういうところの個人的なあるいは組織的な交流によって解決を見いだすようなネットワークづくりは、積極的に行われているのか。そういうのがあると、鳥取県は、人数も予算も少なく不利な状況にあるので、そういうのを活用するとよい。</p>	<p>○国レベルの産業技術連携会議とうのがあって、工業系では産総研、食品系だと食総研があり、その並びで、各公設試がぶら下がっているネットワークがあり、各分野毎に会議や研究会が行われている。問題があったことについては、提案をしたり、何かあれば、一緒にやったりと、会議の席以外に個別にネットワークがあるので、企業から相談があれば、まず、中国地方で誰かいないか、だめなら産総研とか国の機関に、大学も含めて、そういうのは前からできている。ただ、薄くなっているのが、自前の研究ばかりやっていて、いわゆるお友達になる機会が少なくなっているの、中国地方だけでもそういうネットワークを作ろうとしている。</p> <p>○中国地方で、サイバーネットで開放機器をぜんぶ集めて、そこをクリックすれば誰が担当かわかるようにする等、まだ進んでいないが、各研究者がどういうことをしていて、その人がどういうネットワークがあるかをこれからつくろうとしている。（産技センター）</p>

第8回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会 出席者名簿

【委員】

区分	氏名	所属名	役職名	備考
委員長	千葉 雄二	財団法人とっとり政策総合研究センター	調査研究ディレクター	
委員	谷口 義晴	日本セラミック株式会社	代表取締役社長	
委員	辻 智子	日本水産株式会社	顧問	
委員	中村 宗和	国立大学法人鳥取大学	名誉教授	
委員	副井 裕	国立大学法人鳥取大学	学長補佐	

【地方独立行政法人鳥取県産業技術センター】

氏名	役職名	備考
徳村 純一郎	企画管理部長	
門脇 互	企画管理部企画室長	
玉井 博康	企画管理部企画室企画員	

【事務局（鳥取県）】

氏名	役職名	備考
岡村 整裕	商工労働部産業振興戦略総室長	
野口 誠	商工労働部産業振興戦略総室産学金官連携チーム長	
小谷 博之	商工労働部産業振興戦略総室産学金官連携チーム研究開発担当副主幹	